
誇り高き戦闘民族の王子ベジータは働くようです

確認のためいっておきますが僕どらえもんじゃないです。

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

誇り高き戦闘民族の王子ベジータは働くようです

【Nコード】

N89890

【作者名】

確認のためいっておきますが僕どらえもんじゃないです。

【あらすじ】

ベジータ。

彼にもついに人生の転機がおとずれる。

はたして無事働くことができるのか？社会に適應できるのか？

ユニーク2000越えありがとうございます！！

ブルマ、ついに。

「今日もいい天気だな。太陽ちゃんの愛で前が見えないぜ。」
空を見上げながらおっさんがつぶやいた。

彼の名はベジータ。過去に地球を破壊しようとお友達のナツパ君と侵略にきたものの、マジで単細胞すぎて死にかけたから「動けないサイヤ人なんていらなんだびょん。」とかいって粉々にしたり、ヤムチャからブルマ寝とったり、セル完全体にしちゃって、その後始末ご飯にさせたり、洗脳されてるとはいえ、みずから人殺しまくったりと、まあ、悪逆非道のクソ野郎です。好きな食べ物はグミ（笑）

年齢不詳、無職（ニート^^）、趣味筋トレ、ライバルはカカロット。ようするに戦闘力とプライドだけ無駄に高いゴミです。社会不適合者代表です。

「ねえ、そろそろ働いてよ。まじめに。」

彼女の名はブルマ。天才科学者であり、かなりの美貌の持ち主。

「だにいい！？誇り高きサイヤ人の王子のこの俺様にむかってn」

しかし、Tシャツとブリーフというおっさんファッションで野球中継を見ているベジータの言葉をさえぎるようにブルマが吠える。

「いいから働いてこいっつってんだよこのニートがああああ！！
！てめえのその大事な大事な惑星ベジータはフリーザにかき消され
たんだろぅが！！お前もう王子じゃないじゃん。過去系じゃん。い

つまで過去の栄光にひたってんの、キモ、しねよ。ただのニートの分際で偉そうな口きいてんなゴミカスが。誰の稼ぎで飯くってんと思ってるんだよおい。」

まさに鬼の形相とはこのことである。激しい罵声が、誇り高い（笑）ベジータを襲う。

「ブ・・・ブルマ、機嫌でも悪いのか？肩でももんでy」

「お前がいつまでたっても筋トレか食うか寝るかTVみるかしないから機嫌わるいんだよ馬鹿が！！働くの？働かないの？死ぬの？生きるの？！」

「わ、わかった、働くって。だから落ち着け、そのくベジータの周りだけ重力3万倍スイッチくを置いてくれ、さすがの俺でも即効でつぶれてしまう！」

命乞い、まさにその言葉がピッタリ、そんな光景であった。

「あら、本当に働いてくれるのね？命がけでいってみるものね、愛してるわベジータ。」

「お、俺もだよブルマ、あはは（目が愛してないっていつてるぞブルマ・・・）」

こうして、ついに仕事をしにくベジータであった。

ベジータ、仕事を探す。（前書き）

「

以外の文章は心配で追跡してるブルマです。

ベジータ、仕事を探す。

「なんで俺様が仕事しなくちゃならないんだ。金なら腐るほどあるだろうに。くそつたれええ・・・」

「ありがとうございましたー、またおこしく下さい。」

M字ハゲのおっさんはブツブツ文句たれながらバイト募集の雑誌を買いました。それにしてもいつまでたっても老けないってうらやましいわね、万年M字ハゲのくせに。

「ファミレス、初心者歓迎、優しいスタッフが指導します。時給900円、か。まあ妥当だな。この俺様が1時間900円という賃金で働くのはありえないが、背に腹はかえられん。ブルマに殺されたくないし。」

ウエストポーチをまさぐり、携帯を取り出す。なんでウエストポーチなのよ、ださいわ。この携帯はちなみに180kgあるのよ。アホよ。

「こちら中華ファミレス店バーニング修造です。」

「バイト募集のページを見た。面接を受けさせやがれ。」

「え、あっはい。わかりました、では本日17時に来てください。
(何で上から目線?)」

「いいだろう。」

「おまちしております。（なんだこの人・・・まあ人出足りないし、とりあえず面接だけでもしてみるか。）」

そして17時。ちゃんと10分前にきてるベジータに不覚にもちよつと萌えるわ。

「えー、それでは履歴書を提出してください。」

「履歴書だと？そんなものはない！！」

「そうですか、では質問するので答えてください。（もってこいよハゲが。）」

「年齢は？」

「おぼえていない。」

「学歴は？」

「ない！」

「過去に仕事をした経験は？」

「ない！！！！」

「え、なにもないんですか？」

「ないといっただろうが。大体初心者歓迎と書いてあったのはどこの店だ！いってみる地球人！」

「はあ、まあうちですけど・・・。では特技は？」

「ビッグバンアタック、ファイナルフラッシュ、ギャリック砲だ。」

「はい、ありがとうございます。結果は電話で連絡します。（あ、だめだこいつ特技聞いているのに必殺技みたいなこと言い出した。良い年して中2病患者だ。かくゆう私も重度の釘宮病患者ですがね。フヒヒ）」

「えー、面接の結果不採用でした。またのご来店をお待ちしています。お客様として。」

「だにー！！！！なぜだ！！理由を言えクソったれええ！！っち、切りやがったな・・・」

まあ当然の結果ね・・・ベジータにしてはがんばってるけど。少し手伝ってあげるか。私ってやさしいー。

「ベジータ、この仕事はどう？私の友達がオーナーやってるから、頼めば入れてくれると思うわよ。」

「服屋の店員か・・・俺には向いてないと思うんだが。」

「いいじゃない、経験よ。とりあえずがんばってみなさいよ。ベジータなら出来るわ（満面の笑顔）。」

「いいだろう、やってみよう（ブルマ今日もかわいいなー）。」

ベジータ、家出

「ファイナルフラアアアアアアアアアアッシュ!!!!!!!!!!」

黄金に輝くM字ハゲ。

ピッタリタイトのあの服を着て、ベジータは日課の修行中。

「くそっ、だめだ、こんな技ではスーパーサイヤ人3になったカカロットには勝てない・・・ちつくしょおおおお!!俺を誰だと思っ
てやがる・・・なめるなよ!!」

両手をもう一度脇から90度の位置まで持ち上げ、手のひらより10cmほど先に意識を集中させる。トレーニングルームが震え、空間がゆがみかけていた。

「ハイパー・メガ・ファイナル・ギガント・テラ・エターナル・デイス
テニィ・インフィニティ・フラアアアアアアアアアアッシュ!!!!!!!!!!」

すさまじい轟音とともに放たれたベジータの新必殺技はすごかった。精神と時の部屋の次元を破ったスーパーサイヤ人3化ゴテンクスでさえ壊せないように、ブルマとブルマの父親が協力してつくった、世界最高峰のトレーニング空間をぶち壊したのだった。

「やった・・・やったぞ!!ついに俺は新必殺技を編み出したんだ、みてるよカカロット、No.1はこの俺様だ!!」

ベジータが喜びのあまり失禁しながらその感動を噛み締めていると、ブルマが例のスイッチ（ベジータの周りだけ重力3万倍スイッチ）

を持ってやってきた。

「このゲス野郎がああああああああああああああああああああ
あああああああああああああああああああああああああああ
あ」

「ひいひいひいひいひいひいひいひい」

さらに漏らすベジータ（無職）推定年齢40歳以上55歳未満。

「せっかく仕事紹介してやったのにさぼって修行だとかいってトレーニングルーム壊すなんて・・・この設備にいたいにくらかかってるか知ってるの?! 時給1万円でも一生働いたって払えない金額なのよ!!!! もう信じられない!!!!」

「す、すまんブルマ。つい自分の戦闘力の低さに腹がたって・・・でも、聞いてくれ、新しい必殺技を手に入れたんだ、こいつでカカロットを倒せば」

「悟空君を倒しても金にはなんねえんだよM字ハゲ猿!! 寝言は寝
ていうもんだって母ちゃんから習わなかったのかよクソが!! ああ、
すまんね、かあちゃんはフリーザに殺されてたんだっけね? オーッ
ホホホホホ。デスビーム! くらえ、デスビーム!」

「ひ、ひどい！そこまでいわなくてもいいじゃないか！！」

「何逆ギレしてんだよ働きもしないで飯食うだけじゃ飽き足らず施設つくらせて壊してるようなやつに人権はねーんだよクソが、嫌だつたら働けチビ!!」

「も、もういい!! 出ていく!!」

「あー上等だね、帰ってくんない!!」

ベジータ、気付く

「こんにちはー、悟天君いますか？」

トランクスが悟空家に遊びにきた。大方修行をしようというのだらう。

「よくきたな、トランクス。今呼ぶからここで待ってろー」

そういつて悟空はもう一度家の中へ消えていった。しばらくすると悟天が下りてきた。

「おお、トランクス、どうした？修行？」

笑顔で悟天が迎えてくれた。もうすぐ10時すぎだというのに、眠むそうだったが。

「うん、少し気の運用が前より上手くなった気がしてね。」

「よっしゃ。じゃあ山にでもいくか。」

「オラもいくよ。たまには体動かさないと。」

「えー、父さん来たら全然勝てないじゃん。フュージョンする？トランクスー」

「ははは、それは勘弁してくれよー。じゃあいくべ。」

雄たけびを上げると同時に爆風が起きる、スーパーサイヤ人2になったようだ。悟天はこのままでは悟空に気弾が当たらないことを察したのか、かめはめ波を打つ準備をしている。すでに超2化はすましているようだった。

「おー、怖え、オラも少し本気だすかな！」

悟空が超2化を終えると同時に悟天の充填かめはめ波が悟空に直撃した。

よけようとはしたものの、トランクスの激しい攻撃によって上手く回避することができなかった。瞬間移動で悟天の後ろに回る、などもいいが、ここでそれは卑怯かな、と思い、甘んじて受けることにした。

しかし、直撃したものの悟空はピンピンしていた。

「はぁ・・・はぁ・・・だめだ、とてもかなわない。」

超化2を解除するトランクス。

「やっぱり父さんはすごいや。かなり本気のかめはめ波だったのに。」

おなじく超化2を解除する悟天。

「いや、二人ともしっかり強くなってるぞ。オラがその年の時は、スーパーサイヤ人にすらなれなかった。むしろしらなかったぐらいだ。これからも修行を続けるように。」

悟空が1時間ほどにわたった戦闘訓練をしめようとした時、上空にM字ハゲがあらわれた。

「はっはっはぁ！カカロット、お前がついに俺に負ける時がきたよ
うだ！構えろ！」

修行後で疲れている悟空に満タンの体力で攻撃態勢、元王子（笑）。

「おお、ベジータ、久しぶりだなあ。いいぜ、おらもウォーミング
アップは済ませてあるところだ。」

流石主人公は言うことが違う。ハンデがあることをベジータに気負
わせないために、あの激しい戦闘をウォーミングアップといったの
けた。

「今日の俺はイライラしてるし心が傷ついているんだ、舐めてかか
って死にかけても知らんぞー！！！」

「なんだ、ブルマと喧嘩でもしたのか？グミくれなかったとか？」

「グミはいつも貰ってるわー！！！！ええい、いくぞ！！！」

「おう！」

すでにベジータは超2化していたため、悟空もスーパーサイヤ人2
に変化した。

「おお、すげえ、ベジータさんと父さんの生バトルみるの初めてだ。
」

「気はブウさんの時に感じたが、目の前にするのは初めてだな。」

「どっちが勝つと思う？」

「そりゃもちろん父さんだよ。」

「ふ、俺も父さんにかける。」

「よし、負けたほうがあとでジュースな。」

「オーケー！」

にらみあう両者、静寂を切り裂くようにベジータが雄たけぶ

「ギャリック砲！！！！」

紅色をした高密度の気がベジータの両掌りょうてのひらから発せられた。

「かめはめ波！！！！」

負けじとおしかえす悟空、両者の気は中央でぶつかりあい、相殺された。

「うおおおおおおおお！！！」

相殺と同時にベジータがしかけてきた。ミサイルが直撃しているような接触音とともに、攻防戦が繰り広げられる。

「カカロットオ、そんなもんじゃないだろう！本気でこい！」

ベジータの右ストレートをうけとめながら悟空も左フックをいれる。

「どうやら本気のようなな、いくぞ！だああああああああああああああああああ！！！！！！」

咆哮とともに大地が震え、雲が消しとんだ。スーパーサイヤ人3になったのだ。

「そうだ、それでいい！！ただ俺も負けにきたわけではない、喰らうがいい、新必殺技を！」

「ワクワクすっぞ、こい！」

「はああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！」

両者の叫び声と同時にてのひら付近にとてつもない光が集合する。

「かあ、めえ、はああ、めええええ、波ああああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！」

悟空が短時間でひきあげられる最大値の気を集中したかめはめ波を放った。

ベジータも気の充填を終え、技にかかる。

「ハイパー・メガ・ファイナル・ギガント・テラ・エターナル・デイスぐああああああああああああああああああああああああああああああ！！！！！！！！！！」

吹き飛ぶベジータ。

「とおさあああああああああああああああああああん！！！！！！！！！！」

トランクスが叫ぶ。ベジータは必殺技の詠唱（もちろん、別に唱えなくても出せる。魔法じゃないし。）に時間がかかりすぎ、超化3になった悟空の本気カメハメ波を、抵抗なしで全身でうけとめてしまった。

「え、
ちよ
W
W
W
W
え
W
W
W
W
W
W
W
W
W
W
W
」

悟空があわててベジータにかけよる。すでに虫の息。死にかけている。

「なんで攻撃してこなかったんだっ！とつくに気の充填はすましてただろうに！おめえアホだろwww」

「カカロット……お前がNO.1だ……ぐふっ……」

「やめろよ W W W W W W W W 2 回目の墓つくらせるつもりか W W W
W おい、悟天、オラの部屋から仙豆もってきてくれ、はやく！」

振り返った悟空の元にトランクスが寄ってきた。

「悟天君ならもうすでに向かいました、もうすぐつくと思います！大丈夫ですか、父さん！！」

ベジータの肩を揺さぶりながら、心配そうに声をかける。

「トランクスもう少しこっちにきてくれないか……あまりお前には父親らしくしてやれなかったな……」

そういつて頭を撫ではじめた。

「や、やめて下さいよ！ ブウさんの時みたいなのというのは！！」

「ふふ……ブルマを……まもってくれ……トラン……
ク……ス……」

[illegible]

雲のない空にトランクス
の悲痛な叫びが木霊する。

「ちよ、耳元で叫ぶのやめてくんないトランクス……!! マジで……!!」

本気で嫌な顔で注意する悟空。

「あ、すみません！ 氣絶してるだけですから死ぬ前に仙豆を無理やり胃にいれれば大丈夫ですもんね。」

すぐに悟天が仙豆をもつてやつてきた。

「ほーら、ベジータさん、新しい仙豆よ!!」

バタ子さんばりのナイスピッチンでベジータの口にほうりこむ。

てっ て れっ てっ てっ てー ー ー ー てっ てっ てっ てっ てー てっ て
てー てー ー ー ー ー

どこからともなくファンファーレが聞こえる。

「元気100倍! ベジータ様だ、ははははは! ! ! ! !」

「たく、もうおめえと本気で修行怖くてできねえよ！」

「すまんすまん、俺としたことが。」

「とおさあああああああああああああああああ
あああああああああああああああああ！……！」

「ちよ、お前マジで殺す！！」

「すっすいません、感動のあまり、勘弁してください!!」

「はは、間に合ってよかった。」

しかし、一度死にかけることによって、気付いたことがあった。

それは、本当に自分はトランク스에父親らしいことをしてやれていないことを。

愛するブルマに迷惑しかかけず、夫らしいことをしてやれていないことを。

しっかり働いてみよう。そう思ったのだった。

と、同時に死にかけて復活したから超3化出来るんじゃないかね?と思う
たが、またトレーニングルームを壊してしまいそうなので、とりあ
えず働いてから試すことにした。

ベジータ、気付く(後書き)

ほぼネタなしになってしまいました。コメディーなのにすいません。

愛の巢

「ブルマ、すべて俺が悪かった。許せ。」

涙を浮かべながらベジータは今までのあやまちを謝罪した。

「どうしたのよ、あらたまって……もう、私もいいすぎたわ、ごめんなさい。」

「（なんて美しいんだ……まさに天使）俺は働く。きめたぞ。」

「まあ！どうしたのいきなり。」

「俺はブルマに夫らしいことを何一つしてないことに気付いたんだ。」

「やっと気付いたのね。遅いわよ。」

毒付くブルマの表情は、その言葉と裏腹に、優しさで満ち溢れていた。

「愛してるよ、ブルマ。」

「私もよ、ベジータ。」

きつく抱き合い、熱いキスを交わす。愛を感じながら、二人は夫婦の寝室に向かった。

しかしその愛はトランクス の帰宅によって遮られる。

「ただいまあああああ!!」

「ト、トランクス!! お前は1カ月小遣いなしだ!!」

「なんで? ひどいよ父さん!!」

「まあまあ、トランクスも私たちの愛の結晶でしょ。フッフ」

今日もブルマ宅は平和です。

愛の巣（後書き）

ネタ切れしたんで、終わります！
たくさんのご愛読ありがとうございました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8989o/>

誇り高き戦闘民族の王子ベジータは働くようです

2011年10月8日08時09分発行